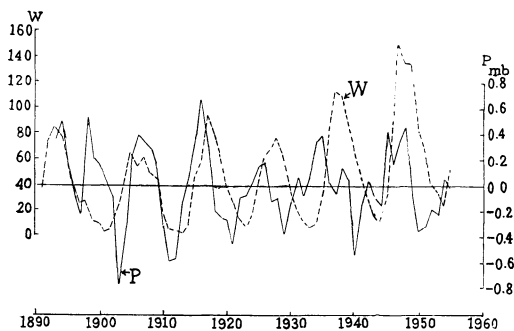


に両要素の変化曲線には、すでに述べたとおり数十年程度の長期変化傾向が重なっていることも事実である。そこで後者を消去して10年周期だけを取り出すために気圧の5年移動平均から10年移動平均をさし引いた値を求

してみると部分的にはかなり良く平行し、黒点数が多い時は本邦の気圧が高く、黒点数が少ない時には気圧が低いという傾向がうかがわれる。特に興味があるのは1950年代前半の多雨期で、この期間は本邦の気圧が黒点数と平行して急激に下降しているから、もし上記のような関係が実在するならば終戦後の降水の増大は黒点数の減少に、その後の降水の減少は黒点数の増大に関連して起っているともみられるだろう。しかし第8図の両曲線の平行性はあくまでも部分的に過ぎず、全期間については多くの不一致が認められ、1900年頃と1930年代はむしろ逆相関となっている。気圧の平均値を算出するための地点の選定を変えるとか、平均期間を1カ月より長くするとかすれば、あるいは更に相関を高めることができるかも知れないが、今のところは相関が実在するかどうかとも不確実である。従ってここでは太陽活動と気圧または降水量の間の関係についてひとつの推測を行なうのにとどめ、その当否の検討は将来の研究にまつことにしたい。



第8図 6地点平均6月気圧5年移動平均値(実線P)及び太陽黒点相対数(破線W)の経過。

め、これを第8図の実線で示した。また太陽黒点相対数年平均値の曲線を破線で描いた。こうして両曲線を比較

551. 524. 34 (521. 84)

広島冬の低温9年周期

広島冬の(12. 1. 2月)の平均気温を平年値(1931~1960)5.2℃との偏差の形で1890~1963年について示してみると表のようになる。平年値にも問題はあるが、1891年は正であったが、その後9年目ごとには負の値がみられる。1954年は0となっているが、前後の年の暖冬傾向の中で周期年にあたっていることがうかがえる。1962年12月は+0.3℃であったが、1963年1月は-2.8℃、2月は-2.2℃で冬期平均として-1.6℃となり低温周期年にあたっている。

1位	-8.6℃	1917年12月28日
2	-8.5	1963 1 16
3	-8.4	1883 12 31
4	-8.3	1917 1 5
4	-8.3	1886 2 3

となっており、1963年は-8.5℃の第2位の低極が現われ、1月としては第1位の低極である。この低温は年号をさかのぼってみても、9年周期年の中に必ずしも出現してはいないことがわかる。

(広島地方気象台 今田 克)

12, 1, 2月広島の平均気温平年値(1931~1960)5.2℃からの偏差表

年		平年差		℃	
1890	+0.7	1900	-0.7	1900	-0.4
91	+0.7	1	-0.4	11	-0.3
92	-0.5	2	-0.8	12	+0.5
93	-2.5	3	+0.9	13	-0.6
94	-0.9	4	-0.9	14	-0.2
95	-0.8	5	+0.2	15	+0.1
96	-0.8	6	+0.2	16	+0.7
97	-0.6	7	-0.5	17	-1.1
98	-0.1	8	-0.2	18	-1.9
99	+0.1	9	-0.2	19	0
				20	-0.9
				21	+0.2
				22	-0.2
				23	-1.0
				24	+0.1
				25	-0.8
				26	-0.5
				27	-1.4
				28	-0.2
				29	-0.8
				30	+1.3
				31	0
				32	+0.3
				33	-0.8
				34	-1.1
				35	+0.2
				36	-2.2
				37	+1.0
				38	-1.1
				39	-0.7
				40	+0.4
				41	+0.2
				42	-0.5
				43	-1.3
				44	-0.3
				45	-2.4
				46	-0.5
				47	-1.3
				48	-0.7
				49	+1.3
				50	+0.6
				51	0
				52	+0.2
				53	+0.2
				54	0
				55	+1.5
				56	+0.4
				57	-0.2
				58	-0.3
				59	+0.4
				60	+0.5
				61	+0.9
				62	-0.8
				63	-1.6